入館後３年以内の職員に聞きました。このほかにも、国立国会図書館ホームページ「採用情報」では、採用試験合格者（採用予定者）の合格体験記・アンケート結果も公開しています。ぜひご覧ください。

志望動機／国立国会図書館に決めた理由

納本制度によって収集した資料を基に、国会・国民へのサービスを提供するという唯一無二な仕事に憧れました。

「情報を活用して幅広い人の役に立てる」という観点で就職活動をする中で、調査業務や利用者サービスなど多様な業務がある点に惹かれました。

調査及び立法考査局のことを知り、「好きな調べものを仕事にできたら最高だなぁ」と思ったため。

本に携わる仕事かつ、学術性の高い仕事がしたくて志望しました。経済的な利益ではなく、社会全体の利益に資することも魅力的でした。

どんなに時代が変化しても、その時々の記録を残すことの重要性は普遍だと思ったから。また、数十年、数百年先の将来のために仕事ができると感じたから。

学生時代に培った調査研究能力や語学力、計算機に関する知見を総合的に活かせるのではないかと考えたこと、書籍も含めた情報流通に関わりたいと思ったことがきっかけです。

やりがいを感じた時

館内の見学案内をして、見学者に興味深く聞いていただき、参加してよかったと言っていただけたとき。

調査結果を国会議員に直接説明するとき。念入りな準備を行うため自分にとっても勉強になりますし、満足していただけると励みになります。

依頼者から、作成した調査報告について「わかりやすかった」「役に立った」と反応をいただいたとき。

自分が受入をした資料が、国民の文化的資産として永く保存されることを考えると、仕事の重大さとともにやりがいを感じます。

館内の展示コーナーを担当した際、利用者から好意的なコメントをもらったとき。利用者と資料を繋げることができたと感じました。

地道に検品していたデジタル化資料が、国立国会図書館デジタルコレクションで無事公開されたとき。

担当しているジャパンサーチが、調査・研究や学校の授業、創作活動などで活用されていると知ったとき。

入館して驚いたこと

業務の幅が広いこと。自分の業務とは直接関わりのない業務も多く、先輩から他部署の経験談を聞くのが面白いです。

本に限らず様々な媒体の資料があり、今まで触れることのなかった種類の資料を扱うことができること。

図書館ということで黙々と仕事をするイメージでしたが、上司や周りの人と一緒に業務を進めていくことが多く、相談しやすい環境です。

研修が盛んに行われており、多くの学びを得られます。

新しい知識を得ることが好きな人が周囲に多いこと。

国立国会図書館を志望する方へ

人の役に立っていることを実感しやすい業務が多い点が魅力だと思います。

今まで学んできたこと、経験してきたことが何らかの形で活かせる職場だと思います。また、新しい分野を学ぶ楽しさも実感できると思います。

国会サービスをはじめ、国立国会図書館ならではの業務がたくさんあり、様々な経験を積める職場です。

国立国会図書館は多くの重大な任務を持つ図書館です。知的好奇心を持ち、目の前の課題に真摯に取り組む皆様をお待ちしています。

国立国会図書館職員に求められる「専門性」

国立国会図書館ではあらゆる分野の資料・情報を扱っています。幅広い領域にわたる国政課題の分析には、科学技術や統計を含む様々な知識が必要とされます。また、社会科学、人文科学、自然科学の様々なテーマについてレファレンス回答や資料の紹介を行うためには、各分野の専門知識を持つことが求められます。近年は、電子情報サービスにも注力しているため、IT に関する知識をいかす場も増えています。

そのため、国立国会図書館では、どのような分野であっても、大学等で培った専門性をいかす機会を得られます。一方で、担当業務に合わせて新たな専門性を高める必要もあるので、研修に参加したり自主的な勉強会を開催したりするなど、知識の習得に積極的な職員も多くいます。

採用試験

最新の情報は、国立国会図書館ホームページの「採用情報」でご確認ください。〈https://www.ndl.go.jp/employ/〉

国立国会図書館の職員は、独自の採用試験により採用しています。最終合格者は即採用予定者となり、官庁訪問に当たるものはありません。また、受験に当たって、司書資格は必要ありません。障害のある方に対しては、受験上の配慮を行います。総合職試験、一般職試験（大卒程度）に加えて専門職の試験を実施する年度もあります。総合職試験受験者については、総合職試験に不合格となった場合に、一般職試験（大卒程度）の受験者としての取扱いを受けることができる特例制度を利用することができます。

■ 試験日程（令和７年度実績）

受験申込
2/3 － 2/19

第１次試験
3/22

第２次試験
筆記：4/19
面接：４月下旬～５月上旬の指定する日

第３次試験
６月上旬の指定する日

最終合格発表
6/24 以降

■ 試験方法（令和７年度実績）

	総合職試験	一般職試験（大卒程度）
第１次試験	教養試験（多肢選択式・共通）	
第２次試験	英語試験（多肢選択式・共通）	
	専門試験（記述式・共通）	
	専門試験（記述式）	―
	小論文試験	―
	人物試験（個別面接）	
第３次試験	人物試験（個別面接）	

※専門試験科目は、受験申込時に以下から１科目を選択。法学（憲法、民法、行政法、国際法から受験時に２分野選択）、政治学、経済学、社会学、文学、史学（日本史、世界史から受験時に１分野選択）、図書館情報学、物理学、化学、数学、工学、情報工学、生物学。

■ 採用実績

	年度	R3	R4	R5	R6	R7
総合職試験	申込者数	363 (189)	384 (199)	428 (195)	406 (201)	373 (156)
	採用者数	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	4 (2)
一般職試験（大卒程度）	申込者数	507 (322)	666 (418)	682 (434)	593 (349)	611 (382)
	採用者数	13 (7)	13 (7)	21 (13)	17 (10)	13 (9)

※一般職試験（大卒程度）の採用者には、総合職試験特例申込者を含む。
※（ ）内は女性の数。
※令和７年度の採用者数は令和７年 10 月時点の採用予定者数。